

# 東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合  
横浜地方本部  
発行者/ 松田 和秀  
編集者/ 教育・広報部

## 第5回定期大会開催

横浜地方本部は8月6日、川崎市総合自治会館において「第5回定期大会」を開催しました。大会には90名の組合員が結集し、1年間の取り組みの総括として「組織強化・拡大の取り組み」「2017春闘の取り組み」「2017年夏季手当の取り組み」「安全確率に向けた取り組み」「エルダー社員制度に関する取り組み」などと、今後1年間のたたかう方針を決定しました。

松田委員長の挨拶では、冒頭7月上旬に発生した九州北部集中豪雨、7月22日に秋田県を中心に記録的な豪雨で被害にあわれた方にはお見舞いを申し上げます。

結成以来「組合員一人ひとりが職場を拠点とし全組合員参加型の分会運動を通じて組織の強化・拡大をめざそう」をこだわりもって変わらないスローガンで、200名組織をめざすために、職場から全組合員参加型の運動をめざし、組織強化・拡大に全力で取り組んできました。今大会は2年間の総括と結成の意義をしっかりと明確にする大会にして欲しい。「JR労働運動の大同団結・一元化」の課題がある。各職場に見合った業務課題・他労組との共同行動を通じて組織強化・拡大を推し進めていかななくてはならない。労組の垣根を越えて、多くの社員から共感される労働組合を創造するために新たな一歩を踏み出し決意をしたい。

JR 東日本は増収増益と過去最高の記録をしている。「2017春闘」では「組合員一行動」による運動の展開と、春闘スローガンの取り組みを全組合員参加で創造的につりあげてきた。「私の思いから、私たちの思いへ」と組織を意識して本部交渉団を応援・支援することができた。また「2017年度夏季手当満額獲得のたたかい」は、要求満額回答を求める組合員の期待を裏切る回答であった。この間の「2017春闘」「2017年度夏季手当満額獲得のたたかい」を総括し、労働者にふさわしい賃金や労働条件を求めて「2017年度年末手当のたたかい」「2018春闘」に勝利するために職場からつくりあげていかななくてはならない。

エルダー制度の破綻に伴い「業務範囲の拡大と労働条件の一部変更について」は、新たなエルダー制度の拡大を会社から提案を受けた。現在職場では面談が始まり問題点が多く不安だという声が出ている。この声をしっかりと受け止め、会社とたたかわなければいけない。今後のエルダーの雇用制度見直しをしっかりと取り組まなければいけない。

「JR 発足30年！あらゆる労働条件・労働環境の総点検行動」は、全組合員参加型で取り組んでいただいた。切実な要求や改善点等、責任を感じる要求が多くあった。一つひとつ改善に向けて取り組んでいきたい。全組合員参加型の運動を進めるために先頭に立つと挨拶を行いました。





質疑では 11 名の代議員から発言がありました。『組織強化・拡大の取り組み』として ①分会で取り組んできた大同団結について ②強固な分会組織づくりについて ③若手組合員の将来をミドル世代が責任を持たなくてはならない ④早期に JR 労働運動の大同団結・一元化成し遂げることは私たちの責任である ⑤組織拡大について、『2017 春闘の取り組み』として ①分会として 2017 春闘をどうつくっていくのか ②本部への激励行動、『安全問題』として ①南武線速度制限箇所見直し ②南武線川崎駅ホーム要員の要請 ③安全が疎かになっていないか ④横浜線町田駅ホームドアについて、『労働条件改善の取り組み』として ①エルダー社員制度の課題及び業務範囲の拡大と労働条件の一部変更についての疑問 ②要員増に伴う諸課題、『情宣活動』として ①職場での情報・宣伝活動の成果 ② 情報のタイムリーな掲出 等の発言が出されました。

山口書記長の集約答弁（要旨）では、恒久的スローガンの則った「職場を拠点とし全組合員参加型の取り組み」が分会役員・分会組合員の議論と努力によって更に成長していることを実感・進化していることを確認したい。今集約答弁では特別な 2 年間について集約したい。それぞれが課題に対して取り組んだこと。組織強化・拡大プロジェクトチームを立ち上げ議論を共有化させ次なる目標を定め定期的に議論をしてきた。その結果 5 名拡大を実現してきた。心と想いを繋ぐ駅伝は 12 月 7 日に開催する。今年は原点に帰って取り組んでいく。全組合員が関わることを通じて組織強化を達成することで、恒例行事でなくなんのために繋ぐのかを考えることが重要だ。今年 4 月、JR 発足 30 年を迎えた。喜び合いたいと思う。今 JR 東日本会社の実態を見たとき「安全は会社の責任においてやる」会社の傲慢さがましているばかりだ。労働組合としてメスを入れていかなければ、この会社の未来は暗雲立ち込める。今日 8 月 6 日は、72 年前広島に原爆が投下され、一瞬で街が消え普通の生活と何も罪もない 14 万人の命が奪われた日である。今年 5 月、安倍首相は 2020 年までに憲法を改正し、9 条 3 項に自衛隊を明記すると断言した。平和を守ることは命を守ることである。地域と連携して力を合わせ、我々の綱領にある平和に社会を求める国内外の労働者と連帯しその実現をめざしていかななくてはならない。子供たちの未来に平和を繋げるために今まで培った組織力を更に前進させるため横浜から発信していこうと述べました。



最後に、職場を原点にした運動を基礎に全ての仲間と連帯し、働きやすい職場環境・労働条件を勝ち取ることを参加した全組合員で確認しました。

なお今大会では役員改選を行いました。2017 年度執行体制は以下のとおりです。

執行委員長	松田和秀	鶴見線営業所	執行委員	佐藤久	鶴見線営業所
執行副委員長	末永正	国府津運輸区		小布施一郎	海老名駅
	小山成幸	国府津運輸区		川瀬清和	国府津運輸区
	石垣洋	国府津運輸区		佐々木康裕	川崎駅
書記長	足立幸一	国府津運輸区		橘裕二	鶴見線営業所
執行委員	中山純一	鎌倉車両センター	会計監査員	阿部裕一	大船運輸区
	川村健志	横浜運輸区		鶏冠井伸二	中原電車区
	穂刈司	茅ヶ崎運輸区		中村康彦	相模原駅
	渡邊慎弥	矢向車掌区		中山康治	鶴見線営業所
	石動悟司	中原電車区			